

## ていねいな暮らしのあつたころ

## 佐野二彦の撮った伊深の里山

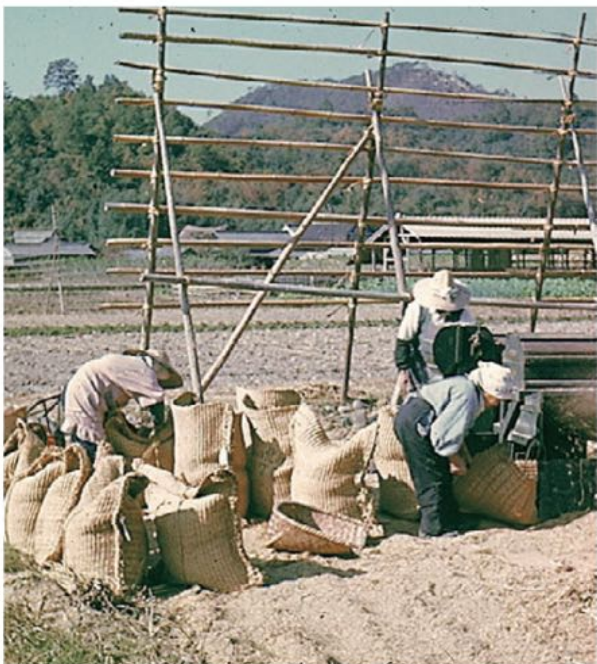
まで運び、日のよく当たる門先<sup>かど</sup>などでムシロを敷いた上に広げ、さらに乾燥させました。左の写真は、もみを乾かしている奥で、トウミでもみとわらくずを分けている様子です。

また10月から11月にかけては、来年の春に収穫する農作物の種まきや苗の植え付けを行いました。稲刈りをした後の田んぼには、稲の株をとって畝<sup>うね</sup>を作り、麦をまきました。畑には菜種をまいたり、イチゴなどの苗を植えたりしました。

「秋のとりいれ」 昭和37年10月7日撮影



「稲こぎ」 昭和37年11月12日撮影



## 「秋の農作業」

秋は、稲や豆、イモなどの収穫をしました。

稲刈りの日は、家族総出で刈り取りをし、ハザに掛けます。半月ほど天日干ししたあと、足踏み脱穀機で稲こぎをし、もみと稲わらに分けました。昭和40年代には、ガンリンや電気で動く脱穀機が使われるようになりました。

もみは、カマス(ムシロで作った袋)に入れて家